

行仙宿の迎春準備

◇実施日 12月22日(日) 雪時々曇り

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、湯川一郎、阪口雄二、濱野兼吉、  
鳥羽真司、大江加予子・徳子、畑林清子、上村和美、  
須崎由香、山口康宏、梶野照雄、志岐敬、山本直子、  
瀧本昭太郎、立野栄弓、小木曾啓子、村吉光夫(持経  
宿へ) 19名

いよいよ令和6年の最終行事を迎えた。春の全ルート巡視、大型連休の対応と各小屋の迎春準備作業がぐるーぷの年間3大定例行事であり、今回は最終行事ということもあって、多数の皆さんから参加連絡を頂いた。天気予報では寒気が南下し、前回12月8日の持経宿、平治宿の迎春準備と同じように風雪が予想されたので、直前に4名の方々からキャンセルの連絡があり、19名の参加となった。

事前に正月用品などを揃えた。この時期はスノータイヤ装着車の確保が必須になるが、全員が乗れる台数を何とか確保できた。

午前8時半に役場駐車場に集まる。村吉さんが自家栽培のニンジン等を皆に配ってくださった。例年の白菜は天候不順のためか大きくならなかったそうだ。ニンジンを持って帰って母ちゃんに渡すと「スーパーで買うと一本100円する。ありがたい」と喜んでくれた。村吉さんはこの後持経宿に向かうので役場で別れ、残りの18名が

5台の車で登山口に向かった。



役場駐車場に集合



登山口水場しめ縄交換



行仙宿に着く

登山口までのR425や四ノ川林道に積雪はなく、いつもと同じ時間で登山口に着いた。全員を前に沖崎より今日の予定を説明し、梶野、沖崎がモノレールで、16人は歩いて登りだした。途中、水場のしめ縄を交換し川島さんの慰霊碑で手を合わせる。

少し登ると辺りは真っ白になっている。積雪は多くはないが、風が強く体感温度はかなり低い。このお天気では毛布干しどころか屋外の作業も長い時間できないだろう。

モノレールは15分ほどで終点到着、梶野君はすぐに水の入ったポリタンクを持って小屋に向かった。沖崎は一人でみんなの到着を待った。30分位で全員が着き、お正月飾りや補充する非常食、水などを手分けして持ち、小屋に向かった。

小屋までの登山道は小雪が降り、風も強くてかなり寒い。小屋に着いて玄関わきの温度計を見るとマイナス2℃だった。風が無ければ

極端に気温が低いわけではないが、屋外の作業は午前中だけにして昼食後に下山することにした。



薪割り作業



水場の清掃としめ縄交換



笠捨山方向の40m位先に梶野君が切った5mの板があり、5〜6人でお堂の前まで運んだ。板の他にも2mほどの丸太や端材があり、一輪車などで運んで薪にした。瀧本さんはチェーンソーを使って薪作り、須崎さんは初体験の薪割りに挑戦していた。

板を運び終えた梶野、志岐、濱野の3名が水場確認としめ縄交換に向かう。水場は涸れていたようだ。

阪口君と児嶋さんが雨水槽の水抜きを行っていたが、溜まった水はすでに凍っていて、氷を取り除くのに一苦労。何とか氷を取って3ヶ所の水槽を横倒すことができた。大江、畑林のお二人はお堂の清掃などを担当。他の女性陣は小屋と管理棟の清掃やお正月の飾り付けをしてくれた。

瀧本さんは一人黙々とトイレ掃除をしてくださった。

寒さで徐々に指先の感覚が無くなってきたころ、水場が戻ってきた。あと少しやらねばならない事ややりたい事もあるが、この条件下ではここまででいいだろうと思ひ、小屋に入って昼食とした。



本日の参加者



水をケースに入れる



玄関のしめ飾り

昨年、スチロールケースに入れた水が凍らなかったので、今回はポリタンクの水を3つ入れた。ストーブを囲んで話も弾んだが、12時半ごろに片付けを始め、帰り支度をして下山した。

登山口で本日、今年のお礼を伝えて鈴焼のお土産を進呈。皆さんに喜んでいただいた。登山口に阪口君を残してくるといふハプニングもあったが、今年一年無事に終了した。来る年も「無理するな、安全第一」を最優先に、日々の山行や作業での報告、連絡、相談（ほうれんそう）にも意識して頑張ろうではないか。皆さんよいお年をお迎えください。ありがとうございます。

（記；沖崎）

## 行動タイム

09 : 10 補給路登山口→09 : 47 コジマハウス→09 : 57 行仙宿 12 :  
52→コジマハウス 13 : 00→13 : 25 補給路登山口